

Índice de las páginas siguientes:

I- Páginas 527-558.

Relación de las traducciones de Don Quijote al japonés desde 1887 hasta la actualidad y muestras de algunas portadas.

II- Páginas 559-569

Relación de estudios realizados sobre Cervantes y sus obras en Japón.

Fotocopias sacadas del estudio sobre Don Quijote en Japón, publicado en 1997 por la Universidad de Estudios Extranjeros de Kioto, 日本における『ドン・キホーテ』、京都外国語大学イスパニア語学科、京都外国語大学附属図書館、1997.

III- Páginas 571-579

Índice del libro de Bando Shoji, *Recopilación de Bibliografía en japonés sobre España y Latinoamérica*.

La literatura española en japonés y la literatura japonesa en español.

『ドン・キホーテ』の翻訳・脚色など（年代順）

- [001](ワ・シ・(渡辺修二郎)編訳)「鈍喜翁奇行伝」(第1部第20章まで)教育雑誌
1887.
- [002](松居松葉訳)『鈍機翁冒険譚』(2冊)博文館 1893.
- [003](片上 伸編)『ドン・キホーテ冒険廻国』世界少年文学(5) 1899.
- [004](雄島浜太郎訳)「ドン・キホーテ(の中の一章)」帝国文学 7(10) 1901.
- [005](雄島浜太郎訳)『世界奇書ドン・キホーテ』育成会 1902.
- [006](佐々木 邦訳)『ドン・キホーテ物語』内外出版協会 1909.
- [007](近藤敏三郎訳)『新訳ドン・キホーテ物語』精華堂書店 1910.
- [008](英語中学編集部訳注)『ドン・キホーテ』育成会 1910.
- [009](松浦政泰訳)『頓機翁冒険譚』北文館 1913.
- [010](佐々木 邦訳)『全訳ドン・キホーテ』東亜堂書房 1914.
- [011](佐々木 邦訳)『全訳ドン・キホーテ冒険廻国』博文館 1914.
- [012](服部嘉香訳)『ドン・キホーテ物語』世界名著物語(13), 河野書店 1914.
- [013](島村抱月/片山 伸訳)『ドン・キホーテ』上・下, 植竹書院 1915.
- [014](佐々木 邦訳)『全訳ドン・キホーテ』弘文堂 1923.
- [015](柴 孝平訳)『ドン・キホーテ』文教書院 1925.
- [016](佐々木 邦訳)「ドン・キホーテ」『世界文学読本』東亜書院 1926.
- [017](佐々木 邦訳)『全訳ドン・キホーテ(縮刷版)』大文館書店 1926.
- [018](矢口 達訳)『ドン・キホーテ』潮文閣 1926(推定).
- [019](樋口紅陽訳)『新訳ドン・キホーテ物語』精華堂 1926.
- [020](片山 伸訳)『ドン・キホーテ』世界文学全集(4), 新潮社 1927.
- [021](奥野庄太郎編)『ドン・キホーテ』中文館書店 1927.
- [022](森田草平訳)『ドン・キホーテ』上・下, 国民文庫刊行会 1927/28.
- [023](梅田 寛訳)『ドン・キホーテ』文教書院 1927.
- [024](大木篤夫訳)『ドン・キホーテの冒険』アルス 1929.
- [025](大木淳夫訳)『ドン・キホーテ物語』春陽堂 1933.
- [026](永橋卓介編)『ドン・キホーテ』世界少年少女名作物語(13), 金の星社 1934.
- [027](ホール・モーラン脚色・山根正吉訳)『ドン・キホーテ』平原社 1934.
- [028](佐々木 邦訳)『全訳ドン・キホーテ』大文館書店 1936.
- [029](婦人公論編集部編)『ドン・キホーテ』婦人公論1月号・世界名作縮刷全集, 中央
公論社 1937.
- [030](沖野岩三郎著)『ドン・キホーテ』世界名作物語, 童話春秋社 1940.
- [031](片上 伸訳)『ドン・キホーテ(1-4)』新潮社 1942-4.

- [032](宮津博脚色) 『児童劇集ドン・キホーテ(脚本)』未見社 1946.
- [033](宮津博脚色) 『児童劇集ドン・キホーテ(脚本)』青雲書院 1948.
- [034](沖野省三郎訳) 『ドン・キホーテ』童話春秋社 1948.
- [035](永田寛定訳) 『ドン・キホーテ』正・続編 岩波文庫 正編: 第一分冊(1948), 第二分冊(1949), 第三分冊(1951); 続編: 第一分冊(1953), 第二分冊(1975), 第三分冊(高橋正武訳、1977).
- [036](進藤 遠訳) 『ドン・キホーテ』第一篇、第一巻、思索社 1949.
- [037](成田成寿訳) 『ドン・キホーテ』刀江書院 1949.
- [038](西野 久訳) 『ドン・キホーテ』英研社 1949.
- [039](岩佐氏寿訳) 『ドン・キホーテ』世界少年文学選集、大雅堂 1949.
- [040](進藤 遠訳) 『ドン・キホーテ(第一編第一巻)』東亜堂思索社 1949.
- [041](楠山正雄編著) 『ドン・キホーテの武者修行』世界童話宝玉集、富山房 1949.
- [042](沖野岩三郎著) 『ドン・キホーテ』世界名作物語、童話春秋社 1949.
- [043](西野辰吉編) 『ドン・キホーテ』世界名作物語文庫、青葉書店 1950.
- [044](進藤 遠訳) 『ドン・キホーテ』世界文学全集古典篇(9)河出書房 1951.
- [045](永田寛定訳) 『ドン・キホーテ』岩波少年文庫 1951.
- [046](鈴木重雄著) 『ドン・キホーテ』少年少女作家庭文庫 主婦之友社 1951.
- [047](自由国民社編) 「ドン・キホーテ」家庭の手帖 8. 1951.
- [048](宮津 博脚色) 『児童劇集ドン・キホーテ(脚色)』小学生全集(4), 筑摩書房 1951.
- [049](北村謙次郎訳) 『ドン・キホーテ』偕成社 1951.
- [050](三島由紀夫(文)/輪島清隆(絵)) 『ドン・キホーテ』世界絵文庫あかね書房 1952.
- [051](成田成寿筆) 『ドン・キホーテ』四年生の世界名作読本、実業之日本社 1952.
- [052](山室 静編) 「ドン・キホーテ(セルバンテスの物語)」毎日少年ライブラリー・世界名作物語、毎日新聞社 1952.
- [053](那須辰造著) 『ドン・キホーテ』世界名作全集(36), 講談社 1952.
- [054](仁科春彦編) 『ドン・キホーテ』世界名作物語(27), 黎明社 1952.
- [055](進藤 遠訳) 『ドン・キホーテ』第一巻、第二巻, 河出書房市民文庫 1953.
- [056](尾山大助訳) 『ドン・キホーテ』世界名作長篇漫画文庫(16), 集英社 1953.
- [057](北村謙二郎著) 『ドン・キホーテ』世界名作文庫(18), 偕成社 1954.
- [058](保育社編集部編) 『ドン・キホーテ』幼年の名作絵文庫(19), 保育社 1954.
- [059](会田 由訳) 「ドン・キホーテ」『世界少年少女文学全集(23), 南欧篇(1)』, 創元社 1954.
- [060](岩佐氏寿訳) 『ドン・キホーテ』日本児童文庫(39), 世界古典名作選, アルス 1955.

- [061](大木雄二訳) 「ドン・キホーテ」世界童話名作選・4年生の童話、金の星社 1956.
- [062](谷村まち子訳) 「ドン・キホーテ」世界少年少女名作選集 同和春秋社 1956.
- [063](西山敏夫筆) 『ドン・キホーテ』ひかりのくに出版社 1956.
- [064](永田寛定訳・伊馬春部脚色・西川正身解説) 「名作劇場ドン・キホーテ 風車の巻」NHK 第2 1957.
- [065](相良春樹文・駒宮緑郎絵) 『ドン・キホーテ』世界名作全集(52), 日本書房 1957.
- [066](猪野省三作) 『ドン・キホーテ』たのしい童話(31), ポプラ社 1957.
- [067](馬場一郎訳) 『ドン・キホーテ』少年少女名作ライブラリー(2) 西洋古典文学選三十書房 1957.
- [068](藤城清治著) 『ドン・キホーテ』世界の名作(影絵アルバム11), さ・え・ら書房 1957.
- [069](大木雄二筆) 『ドン・キホーテ』4年生の世界童話(世界名作童話) 金の星社 1957.
- [070](白木 茂・二反長半筆) 『ドン・キホーテ』世界名著ものがたり・6年生 東西文
明社 1957.
- [071](岩佐氏寿著) 『ドン・キホーテ』学習百科文庫、学習百科文庫刊行会 1958.
- [072](后藤有一著) 『ドン・キホーテ』学級文庫2・3年生 日本書房 1958.
- [073](会田 由訳) 『ドン・キホーテ(正編全訳)』第3期世界文学全集(1) 河出書房新
社 1958.
- [074](所 勇訳注) 『ドン・キホーテの冒険』英和对訳シリーズ、英宝社 1958.
- [075](会田 由訳) 『才智あふるる郷土ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ(前篇)』世
界文学体系 10 筑摩書房 1960.
- [076](杉浦明平訳) 「ドン・キホーテ」『少年少女世界文学全集 38 南欧・東欧編(1)』
講談社 1960.
- [077](会田 由訳) 『ドン・キホーテ』豪華版世界文学全集(1), 河出書房新社 1961.
- [078](会田 由訳) 『ドン・キホーテ』創元社 1962.
- [079](会田 由訳) 『才智あふるる郷土ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ(後篇)』世
界文学体系 11, 筑摩書房 1962.
- [080](会田 由訳) 『ドン・キホーテ』新編世界少年少女文学全集(32), 創元社 1962.
- [081](后藤有一文) 『ドン・キホーテ』日本書房 1963.
- [082](会田 由訳) 『ドン・キホーテ』河出書房新社 1964
- [083](馬場一郎訳) 『ドン・キホーテ』ジュニア版世界の名作(2), 国土社 1964.
- [084](会田 由訳) 『ドン・キホーテ』(I-II)世界古典文学全集 39, 40, 1965.
- [085](堀口大学訳) 『ドン・キホーテ』新潮社 1965.
- [086](会田 由訳) 『ドン・キホーテ(抄訳)』世界の文学(2), 中央公論社 1965.

- [087](会田 由訳)『ドン・キホーテ(Ⅰ-Ⅱ)』世界古典文学全集(39), 筑摩書房 1965.
- [088](浜田滋郎訳)「ドン・キホーテ」『少年少女新世界文学全集南欧古典篇』講談社 1965.
- [089](杉浦明平訳)『ドン・キホーテ(抄訳)』少年少女世界文学全集(38)南欧・東欧篇(1) 講談社 1965.
- [090](佐々木 邦訳・村松千代文)「ドン・キホーテ」『少年少女の名作文学(40)南欧篇(1)』小学館 1965.
- [091](猪野省三編著)「おんぼろ騎士のてがら話」『少年少女ユーモア文学全集(4) 南・北欧編』ポプラ社 1965.
- [092](会田 由/ 大林文彦編)『ドン・キホーテ(正・続篇の抄訳)』白水社 1967.
- [093](北村謙次郎訳)『ドン・キホーテ』偕成社 1967.
- [094](那須辰三訳)『ドン・キホーテ』講談社 1967.
- [095](北村謙次郎著)『ドン・キホーテ』日本の名作・世界の名作(5) 盛光社 1968.
- [096](村松千代・文)「ドン・キホーテ」『カラー版 少年少女世界の文学』第21巻 南欧編, 小学館 1969.
- [097](会田 由訳)『才智あふるる郷土ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』筑摩世界文学体系 15, 筑摩書房 1972.
- [098](会田 由訳)『ドン・キホーテ(正編)』世界文学全集 3, 集英社 1975.
- [099](堀口大学訳)『ドン・キホーテ』講談社 1976.
- (会田 由)『ドン・キホーテ』世界文学全集 28 学習研究社 1978.
- [100](堀口大学訳)『ドン・キホーテ』世界の文学 8 世界文化社 1979.
- [101](石森章太郎翻案/ 桜多吉作漫画 がんばりナイト)『ドン・キホーテ』学研まんが名作シリーズ 学習研究社 1980.
- [102](芹沢けい介)「絵本どんきほうて」『芹沢けい介全集第一巻』中央公論社 1980.
- [103](草鹿 宏訳)『ドン・キホーテ』少年少女世界の名作 集英社 1982.
- [104](安藤美紀夫訳)『ドン・キホーテ』国際児童版 世界の名作 7 講談社 1983.
- [105](会田 由訳)『ドン・キホーテ』全 4巻 晶文社 1985.
- [106](監修 尾崎秀樹/ 漫画 高島茂)『ドン・キホーテ』旺文社名作まんがシリーズ B3 1985.
- [107](牛島信明編訳)『ドン・キホーテ』岩波少年文庫 1987.
- [108](学習版)『セルバンテス』世界こども名作全集 18 小学館 1987.
- (会田 由訳)『ドン・キホーテ』前編 Ⅰ-Ⅱ, 後篇 Ⅰ-Ⅱ, 筑摩書房 1987.
- [109](安藤美紀夫訳)『ドン・キホーテ』少年少女世界文学館 21 講談社 1988.
- [110](中丸 明訳)『ドン・キホーテ』少年少女希望図書館 2 第三文明社 1988.
- [111](会田 由訳)『ドン・キホーテ』前篇・後篇各 2巻 ちくま文庫 1988.

- [112](窪田般爾訳)『ドレ画 ドン・キホーテ物語』社会思想社 1990.
- [113](草鹿 宏訳)『ドン・キホーテ』少年少女名作の森 9 集英社 1990.
- [114](会田 由訳)『ドン・キホーテ』世界の文学コレクション36 中央公論社 1993.
- [115](エーリヒ・ケストナー著・池内 紀・泉千穂子訳)「ドン・キホーテ」『ケストナーの「はらふき男爵」』筑摩書房 1993.
- [116](中丸 明抄訳)「唯我独尊」抄訳「ドン・キホーテ」別冊宝島『スペイン』宝島社 1997.



訳者不明「欧州情史玉薔薇」(著者はフランス人セルバン
ト。雑誌『吾妻新誌』所載。九春堂、明治18年11月25日第
96号から翌19年1月25日第102号まで7回連載。総28頁。
『模範小説集』の『いつわりの結婚』の翻案。写真は第2
回掲載の雑誌の表紙です。)



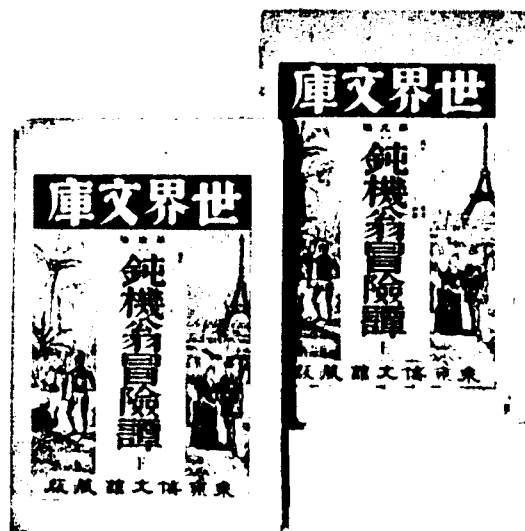
仏国セルバント氏(著)、愛花仙史(関)、斎藤良恭(訳)『欧
州新話谷間乃驚』。東京共隆社、明治20年4月。117頁。
(『模範小説集』の『血筋の力』の翻案)



仏国セルバント氏(著)、愛花仙史(閲)、中村柳塢(訳)『欧州情史美人の罠』。東京共隆社、明治20年10月。127頁(『いつわりの結婚』の翻案。「玉薔薇」と違って長編小説となっている。)



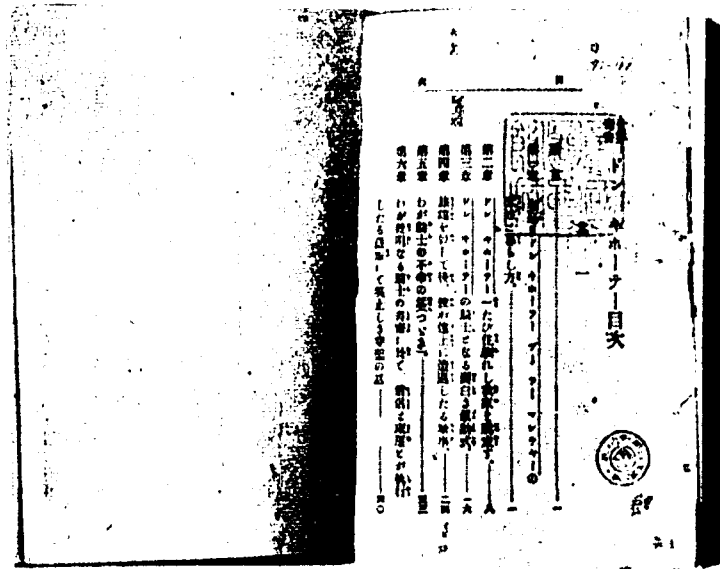
ワ・シ・(渡辺修二郎)「鈍喜翁奇行伝」(『教育雑誌』所載。賛育社、明治20年7月第39号第3冊の1から9月15日第46号第3冊の8まで前篇20迄を各々5回の分けて抄訳した。総22頁。上下2段組。)



松居松葉(訳)『鈍機翁冒険譚』。博文館、明治26年10月上巻(世界文庫第9編)、11月下巻(世界文庫第10編)。(上巻第1篇の1から第3篇其の22迄の161頁は原文52章迄の抄訳。)



松居松葉(訳)『鈍機翁冒険譚』。博文館、明治29年11月。(上・下合本版)



尾島浜太郎(訳)『世界奇書ドン・キホーテ』。育成会、7
明治35年4月。(全6章49頁で、原文前篇第1章から6章
までの抄訳。)



佐々木邦(訳)『ドン・キホーテ物語』。内外出版協会、明
治42年7月。(全14回144頁で、原文前後篇の抄訳。)



近藤敏三郎(訳)『新訳ドン・キホーテ物語』。精華堂書店、明治43年9月。(発端から第16節迄255頁で、原文前後篇の抄訳。)



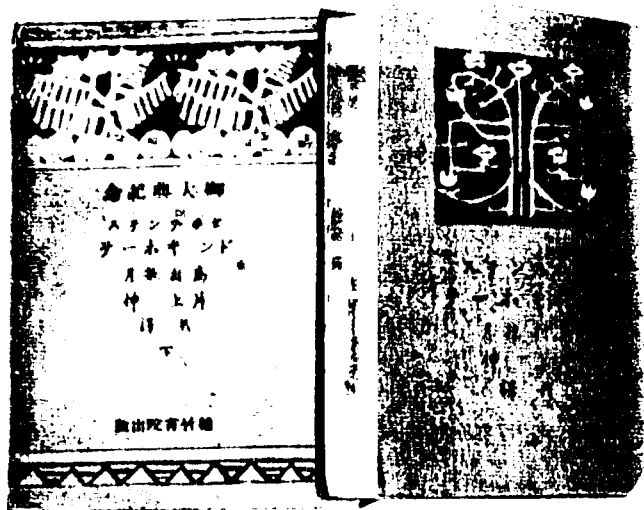
佐々木邦(訳)『全訳ドン・キホーテ』。東亜堂、大正3年4月。(全30回432頁で、原文前後篇の抄訳。ただし『全訳』と名を付けたのは、この頃迄で最も訳出量の多いという意味で考えれば良い。)



片上伸(訳)『ドン・キホーテ冒険廻国』。博文館、大正3年7月。(世界少年文学第5編、全16章223頁で、原文前篇の抄訳。)



服部嘉香(訳)『ドン・キホーテ物語』。河野書店、大正3年9月。(世界名著物語第13編、全27章で、原文前後篇の抄訳。)



島村抱月、片上伸(共訳)『ドン・キホーテ』上巻、下巻。
植竹書店、大正4年11月。(上巻933頁、下巻1029頁。原文
前後篇の初めての完訳。)



柴孝平(訳)『ドン・キホーテ』。文教書院、大正14年12月。
(世界文芸物語双書2、全14章258頁で、原文前後篇の抄
訳。)



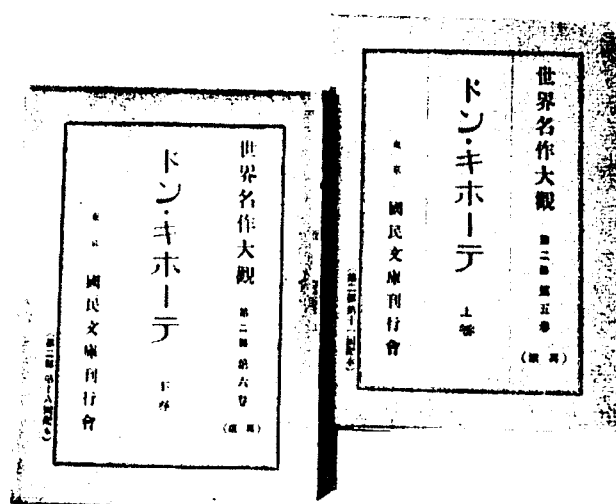
佐々木邦(訳)『全訳縮刷ドン・キホーテ』。大文館、大正15年4月。



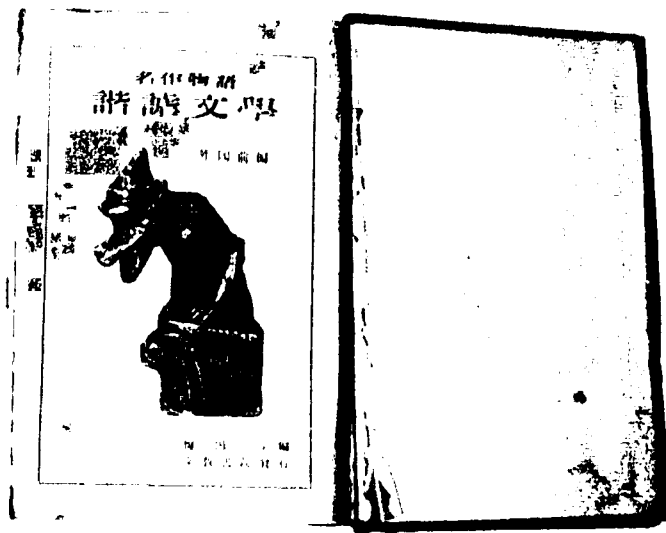
奥野庄太郎(編)『ドン・キホーテ』。中文館書店、昭和2年2月。(学習室文庫)



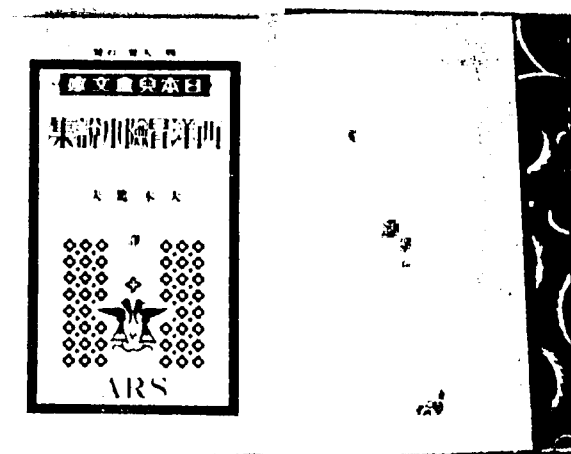
片上伸(訳)『ドン・キホーテ』。新潮社、昭和2年5月。
(新潮世界文学全集4)



森田草平(訳)『ドン・キホーテ』上巻、下巻。国民文庫刊
行会、昭和2年10月上巻743頁(世界名作大観第5巻)、昭
和3年9月下巻896頁(第6巻)。(原文前後篇の全訳。)



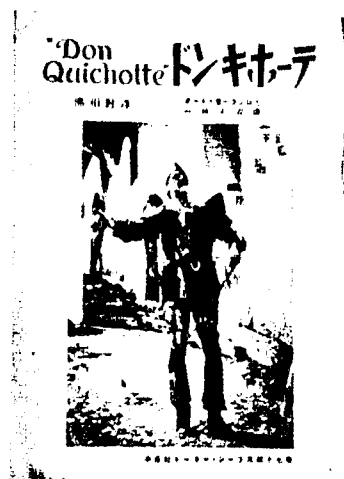
梅田寛(訳)『ドン・キホーテ』。文教書院、昭和2年12月。(['名作物語諧謔文学—外国前編』収載)



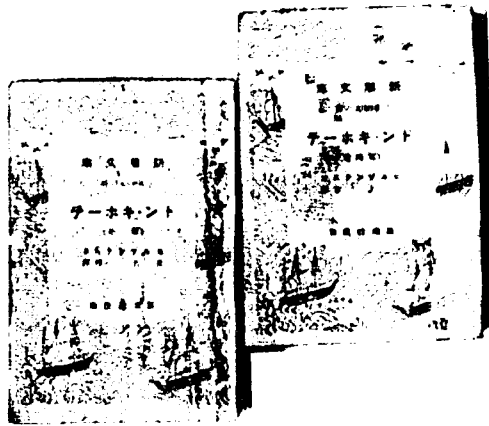
大木篤夫(訳)『ドン・キホーテの冒険』。アルス、昭和4年9月。(日本児童文庫32『西洋冒険小説集』収載)



大木惇夫(訳)『ドン・キホーテ物語』。春陽堂、昭和8年6月。(少年少女文庫63、全20章100頁で、原文前後篇の抄訳。)



ポール・モーラン脚色・山根正吉(訳)『ドン・キホーテ』。平原社、昭和9年6月。



片上伸(訳)『ドン・キホーテ』。新潮社、昭和17年5月(第1巻)、昭和19年9月(第4巻)。(新潮文庫)



永田寛定(訳)『ドン・キホーテ』。岩波書店、昭和23年6月—昭和52年2月。(岩波文庫全6冊)



沖野岩三郎(訳)『ドン・キホーテ』。童話春秋社、昭和24年6月。(世界名作物語)



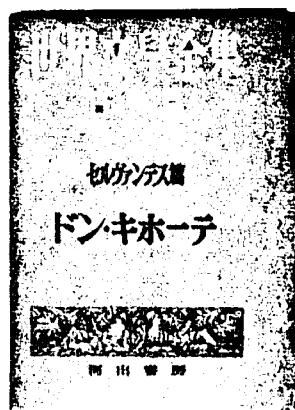
進藤遠(訳)『ドン・キホーテ』。思索社、昭和24年7月。
(原文前篇27章迄の翻訳。)



岩佐氏壽(訳)『ドン・キホーテ』。大雅堂、昭和24年7月。(世界少年文学選集)



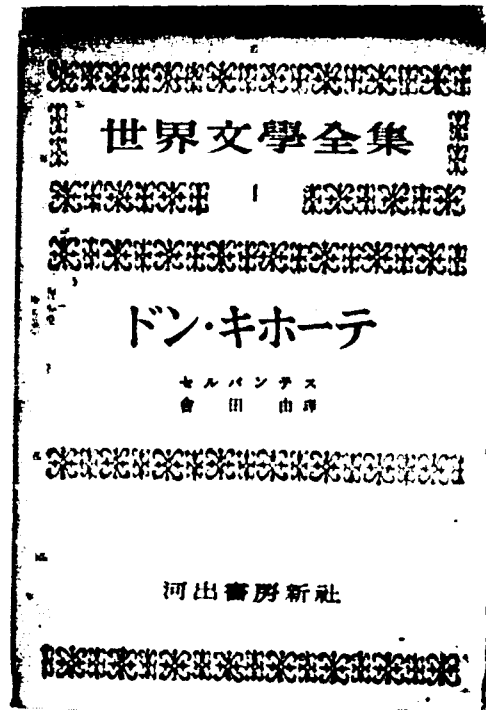
沖野岩三郎(訳)『ドン・キホーテ』。童話春秋社、昭和24年4月。(世界名作物語)



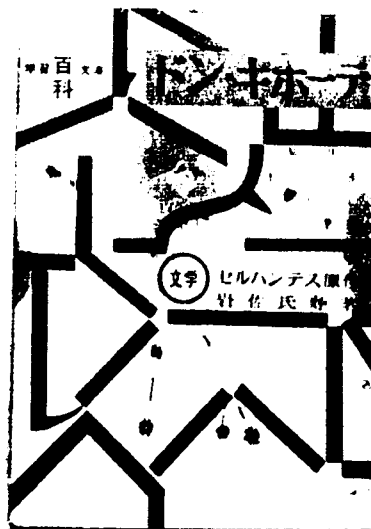
進藤遠(訳)『ドン・キホーテ』。河出書房、昭和26年10月。(世界文学全集古典篇第9巻、原文前篇の翻訳。)



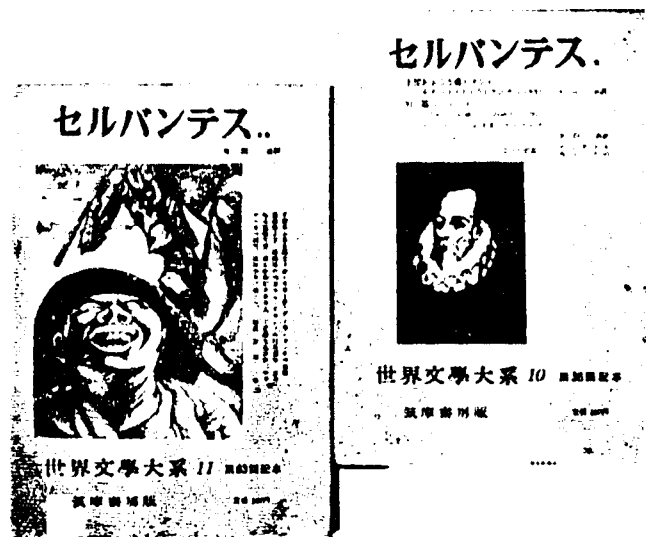
岩佐氏寿(訳)『ドン・キホーテ』。アルス、昭和30年5月。(日本児童文庫39『世界古典名作選』収載)



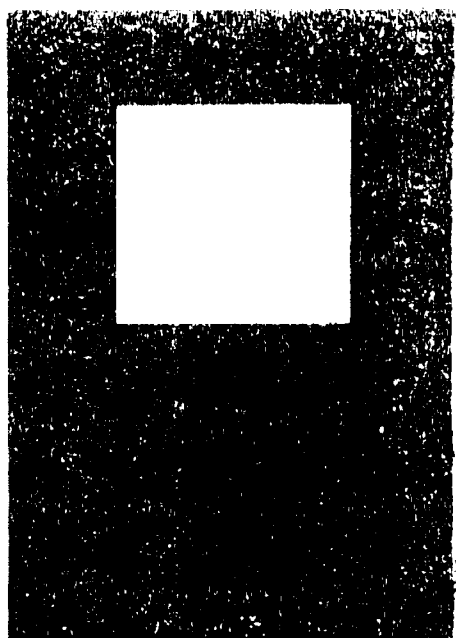
会田由(訳)『ドン・キホーテ』。河出書房新社、昭和33年12月。(世界文学全集1、全篇の翻訳。)



岩佐氏壽(訳)『ドン・キホーテ』。学習百科文庫刊行会、昭和33年1月。(学習百科文庫)



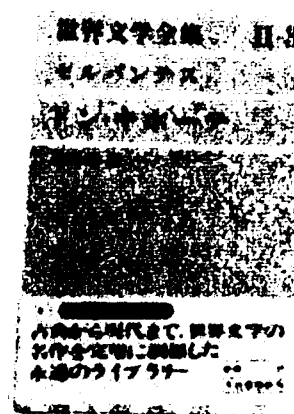
会田由(訳)『ドン・キホーテ』前、後篇。筑摩書房、昭和35年8月前篇(世界文学大系10)、昭和37年12月後篇(世界文学大系11)。(初めての原典からの完訳。)



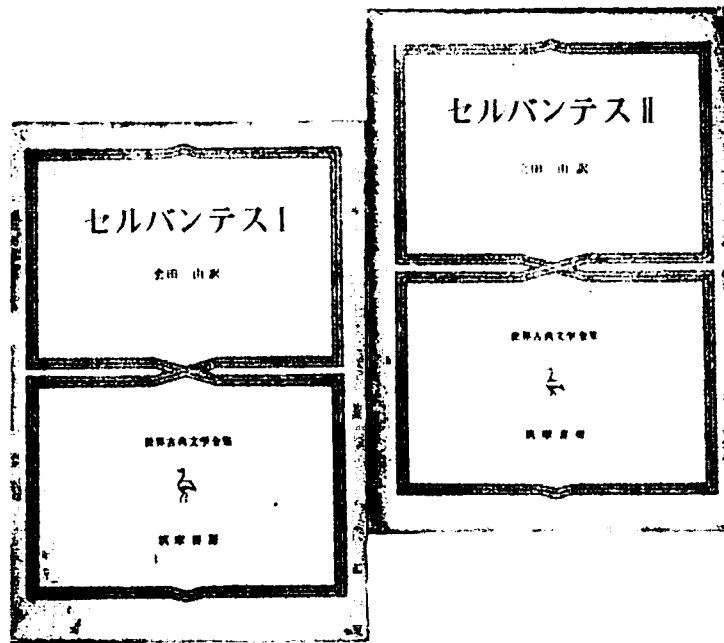
会田由(訳)『ドン・キホーテ』。河出書房新社、昭和36年11月。(特製豪華版世界文学全集1、前篇の翻訳。)



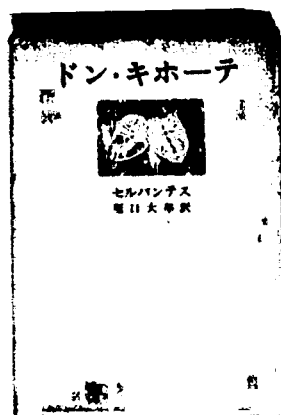
后藤有一(訳)『ドン・キホーテ』。日本書房、昭和38年6月。(幼年文庫)



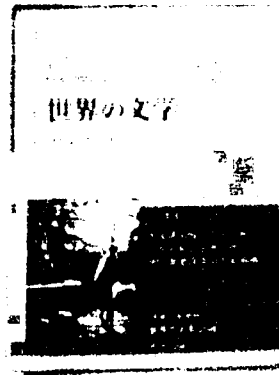
会田由(訳)『ドン・キホーテ』。河出書房新社、昭和39年8月。(世界文学全集Ⅱ-3、前篇の翻訳。)



会田由(訳)『ドン・キホーテ』。筑摩書房、昭和40年2月上巻(世界古典文学全集第39巻セルバンテスI)、3月下巻(第40巻セルバンテスII)



堀口大学(訳)『ドン・キホーテ』。新潮社、昭和40年3月。(原文前篇の翻訳。)



会田由(訳)『ドン・キホーテ』。中央公論社、昭和40年11月。(世界の文学2、前篇の翻訳。)



那須辰造(訳)『ドン・キホーテ』。講談社、昭和42年3月。(世界名作全集49)



会田由・大林文彦(訳編)『ドン・キホーテ』。白水社、昭和42年9月。



北村謙次郎(訳)『ドン・キホーテ』。偕成社、昭和42年19月。(世界の名作. 40)



永田寛定(訳)『ドン・キホーテ』。岩波書店、昭和45年。
(岩波少年文庫18)



堀口大学(訳)『ドン・キホーテ』。講談社、昭和51年3
月。(世界文学全集6、前篇の翻訳。)



北村兼治郎(訳)『ドン・キホーテ』。鶴書房、昭和 年 月。(少年少女世界名作全集20)



安藤美紀夫(訳)『ドン・キホーテ』。講談社、昭和58年4月。



会田由(訳)『ドン・キホーテ』。全4巻 晶文社、昭和60年



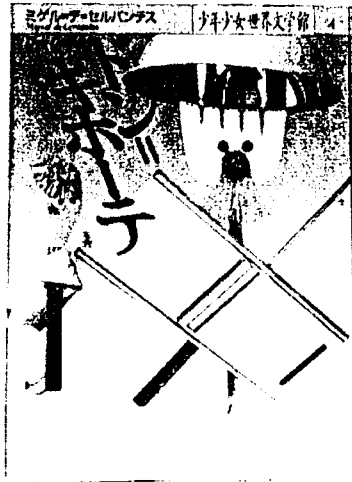
牛島信明(編訳)『ドン・キホーテ』。岩波書店、昭和62年。(岩波少年文庫3125)



中丸明(訳)『ドン・キホーテ』。第三文明社、昭和63年7月。(少年少女希望図書館2)



会田由(訳)『ドン・キホーテ』。全4巻 ちくま文庫、平成元年。



安藤美紀夫(訳)『ドン・キホーテ』。講談社、平成7年3月。

セルバンテス、およびその作品に関する研究・紹介など

- [001] 相沢孝友 「ドン・キホーテとイエス」思想 9月号 1938.
- [002] 会田 由 「ドン・キホーテの生みの親」別冊文芸春秋 45.
- [003] 会田 由 「ドン・キホーテを如何に読むか」知性 2月号 1942.
- [004] 会田 由 「セルバンテスの<<ドン・キホーテ>>」青年文化 1948.
- [005] 会田 由 「レパントの海戦・無敵艦隊とセルバンテス」国民の歴史 1948.
- [006] 会田 由 「劇作家としてのセルバンテス」『サラマンカの洞穴』筑摩書房 1948.
- [007] 会田 由 「セルバンテス」『文学講座第2 巻 文学の歴史』筑摩書房 1951.
- [008] 会田 由 「ドン・キホーテ」『文学講座第 6巻 作品論』筑摩書房 1951.
- [009] 会田 由 「ドン・キホーテ」文芸春秋 4月号別冊 1955.
- [010] 会田 由 「<<ドン・キホーテ>>の誕生」別冊文芸春秋 1955.
- [011] 会田 由 「ルネッサンス人としてのセルバンテス」文学 9. 1966.
- [012] 会田 由 「セルバンテス讃」展望 91. 1966.
- [013] 会田 由監修 『セルバンテス』（文豪の世界4）タイム・ライフ・インターナショナル 1970.
- [014] 会田 由/ 牛島信明 『ドン・キホーテとセルバンテス』さ・え・ら書房 1971.
- [015] アウエルバッハ（篠田一士/ 川村二郎訳）「魅せられたドゥルシネーア」『ミメーシス』筑摩書房 1967.
- [016] 秋元波留夫 「ドン・キホーテの病跡学」日本病跡学雑誌 35. 1988.
- [017] 朝広正利 「老いたる条理の人ドン・キホーテ」作家 76.
- [018] アザール、P.（円子千代子訳）『ドン・キホーテ頌』法政大学出版局 1988.
- [019] アバジェ＝アルセ、J. B.（三角明子訳）「ドン・キホーテ、サンチョ、ドゥルシネーアをめぐる」スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [020] 阿部知二 「ドン・キホーテ」『世界文学の流れ』河出ペーパー・ブックス(47)河出書房新社 1963.
- [021] 飯沢 匡 「ドン・キホーテの旅」『ドン・キホーテ』世界文化社 1965.
- [022] 飯沢 匡 『ドン・キホーテの国』平凡社 1975.
- [023] 飯沢 匡 「セルバンテスと私」世界文学全集28巻『セルバンテス』学習研究社 1978.
- [024] 池内 紀 「ドン・キホーテ考（逆化の文芸学）」ユリイカ 6. 1973.
- [025] 石井 勇「『ドン・キホーテ』覚え書―く とてつもない物好きの小説> を中心に」視界 20. 1979.
- [026] 石田米孝 『ドン・キホーテの歩いた道』広島県廿日市町山陽女子高 1978.
- [027] 井尻直志 「「ドン・キホーテ」の中心的イメージ語り手の言葉をめぐって」

STUDIUM 14. 1986.

- [028] 井尻直志 "El sentimiento ambivalente de la vida en el Quijote(I-II)" 琉球大学語学文学論集 34. 1989, 35. 1990.
- [029] 一色忠良 「二人セルバンテス」 HISPANICA 11. 1966.
- [030] 磯田光一 「『ドン・キホーテ』論」 『正統なき異端』 仮面社 1969.
- [031] 磯田光一 「ドン・キホーテ論」 季刊芸術 8. 1969.
- [032] 稲本健二 「現代に甦るセルバンテスの世界」 学鎧 12. 1989.
- [033] 稲本健二 「文化的事象としてのセルバンテス」 『セルバンテスと『ドン・キホーテ』』 スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [034] 乾 英一 「セルバンテスの演劇論—黄金世紀の演劇論争」 演劇学 27. 1986.
- [035] 岩根圀和 「セルバンテスのヌマンシアの韻律について」 神奈川大学人文研究年報 24. 1991.
- [036] 岩根圀和 「再びセルバンテス、『アルジェの物語』の韻律」 神奈川大学人文研究 113. 1992.
- [037] 岩根圀和 「カルデロン劇に見られるドン・キホーテ像」 神奈川大学人文研究所報 25. 1992.
- [038] 植木利彦 「The Confidential Agentにいて一二人のキホーテ」 岡山理科大学紀要 B 人文・社会科学 30B. 1994.
- [039] 牛島信明 「<<ドン・キホーテ>>の構造」 HISPANICA 15. 1970.
- [040] 牛島信明 「『ドン・キホーテ』のもっとも難解な一節について」 東京外国語大学論集 29. 1977.
- [041] 牛島信明 「サンチョ・パンサの重層性」 HISPANOFILOS 22. 1978.
- [042] 牛島信明 「周縁の人、セルバンテス」 世界幻想文学体系月報26/27 国書刊行会 1980.
- [043] 牛島信明 「セルバンテスの最後の夢—ドン・キホーテとペルシーレス」 海 5. 1981. 1981.
- [044] 牛島信明 「読む行為としての「ドン・キホーテ」」 文学 56. 1988.
- [045] 牛島信明 『反= ドン・キホーテ論—セルバンテスの方法を求めて』 弘文堂 1989.
- [046] 牛島信明 「アジア初のセルバンテス会議に参加して」 朝日新聞夕刊 1989.
- [047] 牛島信明 「セルバンテスにおける構想力—『ドン・キホーテ』におけるインヘニオ ingenio の機能—」 思想 9 月号 1991.
- [048] 牛島信明 「読む行為としての『ドン・キホーテ』—ドン・キホーテとサンチョの関係に対する新たな照射」 スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [049] 牛島信明 "Sobre los títulos del Quijote". Actas del Tercer Coloquio Internacional de la Asociación de Cervantistas. Anthropos, 1992.

- [050] 牛島信明 “¿Es el Quijote típicamente español?” ACTAS. 1993.
- [051] 牛島信明 「スペイン的機知ingenio と『ドン・キホーテ』」東京外国語大学論集 47. 1993.
- [052] 牛島信明 「主体生成の場としての『ドン・キホーテ』」東京外国語大学論集 49. 1994.
- [053] 牛島信明 「ドン・キホーテを生きる」月刊百科 392. 1995.
- [054] 内村鑑三 「西班牙の文士セルバンテス」福音新報 150. 1898.
- [055] 内村鑑三 「西班牙の文士セルバンテス」宗教と文学 8月号 1899.
- [056] 内村鑑三 「スペインの文士セルバンテス」聖書の研究 1915.
- [057] 内村鑑三 「スペインの文士セルバンテス」内村鑑三全集(19)『宗教と文学』岩波書店 1933.
- [058] 内村鑑三 「西班牙の文士セルバンテス」『内村鑑三全集39』岩波書店 1981.
- [059] 内村鑑三 「スペインの文士セルバンテス」『宗教と文学』創元社 1956.
- [060] 英語中学編集部訳注 『ドン・キホーテ』育英社 1910.
- [061] 榎本 太 『ドン・キホーテの影の下に』中教出版 1988.
- [062] 越原富雄「ラブレエの小説ードン・キホーテは「スペインのオデッセイ」なりと」学鏡 23(5). 1919.
- [063] 及川 学「ドン・キホーテとサンチョ・パンサー『ザ・グレート・ギャッツビー』における視点(1)」帝京大学文学部紀要 24. 1993.
- [064] 大島 正 「「ドン・キホーテ」のどこが面白いか?ーその”笑い”に関する試論ー」スペイン図書 2. 1960.
- [065] 大島 正 「セルバンテスー日本におけるスペイン文学ー」福田光治ほか編『欧米作家と日本近代文学 ロシア・北欧・南欧編』教育出版センター 1970.
- [066] 大島 正 「ドン・キホーテ雑感」『スペイン文学への誘い』創世記 1976.
- [067] 太田直道 「ドン・キホーテ症候群」思想と現代 17. 1989.
- [068] 大谷 長 「キアケゴアとドン・キホーテ」大阪外国語大学学報 6. 1958.
- [069] 大橋健三郎 「「ドン・キホーテ」の見近かさ」第 3期世界文学全集セルバンテス編・月報 河出書房新社 1958.
- [070] 荻内勝之 「セルバンテスと『ペルシーレス』」『ペシーレスとシヒスムンダの苦難』国書刊行会 1980.
- [071] 荻内勝之 『ドン・キホーテの食卓』新潮選書 1987.
- [072] 奥田敏広 「ドンキホーテの愛、あるいは「倒錯」の創造性ートーマス・マンの「最後の愛」をめぐって」京都大学ドイツ文学研究 38. 1994.
- [073] 岡村 一 「ドン・キホーテとセルバンテス」『ザ・スペイン』読売新聞社 1991.

- [074] オルランディ、エンツォ編（有永弘人訳）『セルバンテス（カラー版 世界の文豪叢書）』評論社 1976.
- [075] 金沢 誠 「ドン・キホーテと作者—ヨーロッパ文明のはじまり」『新中学生全集』筑摩書房 1958.
- [076] Caneles, Luis "Don Quixote and Mishima Yukio: A Noble Knight and a Homo Erotic Samurai" COSMICA 1988.
- [077] カバヤ児童文化研究所編 『ドン・キホーテの冒険旅行』1953.
- [078] 樺山紘一 「夕映えするルネサンスで エル・グレコとセルバンテス」『地中海の誘惑』中公文庫 1985.
- [079] 亀井勝一郎 「ハムレットとドン・キホーテ（覚え書）」コギト 11 月号 1934.
- [080] 亀井勝一郎 「ドン・キホーテを見て」書物 2(8).1934.
- [081] カンビーノ、フランシスカ（清水憲男編訳）『セルバンテス（世界を創った人々 15）』平凡社 1979.
- [082] 北村謙治郎 『ドン・キホーテ』少年少女世界名作全集 20 鶴書房
- [083] 北村謙治郎編著 『ドン・キホーテ』少年少女世界の名作 85 偕成社 1967.
- [084] 木村 毅 「ツルゲネフと日本文壇「ハムレットとドン・キホーテ」の反響甚大であった事」新潮 32(5).1935.
- [085] 木村 毅 「ハムレットとドン・キホーテ」比較文学新視界（八木書店）1975.
- [086] 蔵本邦夫 「「ドン・キホーテ」随想」日本古書通信 46(9).1981.
- [087] 蔵本邦夫 「セルバンテスの悲劇『ヌマンシア』」京都外国語大学研究論叢 23. 1982.
- [088] 蔵本邦夫 「萩原朔太郎と「憂いの騎士」」日本古書通信 649.1983.
- [089] 蔵本邦夫 「"La fuerza de la sangre"研究」サピエンチア 21.1987.
- [090] 蔵本邦夫 「江戸幕末明治の『ドン・キホーテ』」サピエンチア 22.1988.
- [091] 蔵本邦夫 「坪内逍遙の『ドン・キホーテ』論」HISPANICA 33.1989.
- [092] 蔵本邦夫 「日本における偽『ドン・キホーテ考』」サピエンチア 26.1992.
- [093] 蔵本邦夫 「漱石の『行人』に見る『ドン・キホーテ』」関西外国語大学研究論集 59.1994.
- [094] 蔵本邦夫 「セルバンテスと川端康成—密室の愛欲—」関西外国語大学研究論集 61.1995.
- [095] グリーン・モウルトン、リチャード（本多顕彰訳）「ドン・キホーテの構造上の興味」『文学の近代的研究』岩波書店 1951.
- [096] グリーン、グレアム（宇野利安訳）『キホーテ神父』早川書房 1983.
- [097] 桑名一博 「最近のセルバンテス像(1-3)」スペイン図書 4.1960. 5.1961. 7. 1963.

- [098] ケーベル、ラファエル(深田康算/ 久保 勉訳) 『ケーベル博士小品集ードン・キホーテの高潔性』岩波書店 1919.
- [099] 剣持武彦 「漱石とセルバンテス『ドン・キホーテ』」『個性と影響ー比較文学私論』桜風社 1985.
- [100] 剣持武彦 「日本における『ドン・キホーテ』」スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [101] 剣持武彦 「車寅次郎とドン・キホーテ」『比較日本学の旅ーあるフィレンチェ体験ー』朝文社 1995.
- [102] 小場瀬卓三 「『ドン・キホーテ』の三百年祭によせて」世界文学 6.
- [103] 小林幹治 「映画『ドン・キホーテ』」学習院大学英文学会報 3. 1957.
- [104] コメレル、マクス(円子修平訳) 「ドン・キホーテにおけるユーモラスな人格化」『世界批評体系(現代小説論) 』第 7 巻 筑摩書房 1975.
- [105] 斉藤文子 「『ドン・キホーテ』のクロノロジーの歴史」HISPANICA 33. 1989.
- [106] 斉藤文子 「騎士道物語と『ドン・キホーテ』の時間」HISPANICA 34. 1990.
- [107] 斉藤文子 「『ドン・キホーテ』前編と後編における時間的認識の変化」東京大学教養学部外国語学科編40(4). スペイン語教室論文集 1993.
- [108] 斉藤康子 「M. de Unamunoのドン・キホーテ解釈ー『ドン・キホーテとサンチョの生涯』("Vida de Don Quijote y Sancho")を中心にー」HISPANICA 39. 1995.
- [109] 佐々木 孝 「ドン・キホーテとスペイン精神」『文化誌・世界の国15 スペイン・ポルトガル』講談社 1974.
- [110] 佐々木 孝 『ドン・キホーテの哲学ーウナムーノの思想と生涯』講談社現代新書 1976.
- [111] 佐竹謙一 「老父と若妻の縁組について: セルバンテスとモラティンの場合」HISPANICA 33. 1989.
- [112] サルバドル・ミゲル、ニカシオ 「キホーテの解釈」『コロンブスの新大陸到達 500 周年とスペイン語世界』アカデミア・カスティージャ 1992.
- [113] サンチェス、アルベルト(三角明子訳) 「全作品の集約としての『ドン・キホーテ』(1605)25章」スペイン文化シリーズ1 号 1991.
- [114] Sánchez, Alberto "Don Quijote y los españoles" 京都外国語大学イスパニア語学科創設25周年記念論文集 1989.
- [115] シクロフスキー(水野忠夫訳) 「『ドン・キホーテ』はいかにつくられたか」『散文の理論』セリカ書房 1982.
- [116] 清水憲男編訳 『セルバンテスースペインが生んだ近代小説の先駆者ー』平凡社 1979.
- [117] 清水憲男 「セルバンテスとグレアム・グリーン」ソフィア 38(1). 1989.
- [118] 清水憲男 『『ドン・キホーテ』をスペイン語で読む』21世紀図書館 1986.

- [119] 清水憲男 『ドン・キホーテの世紀ースペイン黄金時代を読むー』岩波書店 1990.
- [120] 清水憲男 「ラ・マンチャ ドン・キホーテとスペイン人気質ー分銅としての狂気」、『スペイン街道ー歴史と文化の旅』中央公論社 1992.
- [121] シモン・ゴメス、ペドロ（渡辺法枝訳）「ドン・キホーテに関する文体の研究」アカデミア文学・語学編 19. 1972.
- [122] シモン・ゴメス、ペドロ（黒野貴久子訳）「セルバンテスと『エル・キホーテ』について」アカデミア文学・語学編 22. 1975.
- [123] シモン・ゴメス、ペドロ（黒野貴久子訳）「バロック文学とバロック美術の比較ーセルバンテスとベラスケス」アカデミア文学・語学編 25. 1978.
- [124] 寿岳文章 『「絵本どんきほうて由来」紙障子』靖文社 1941.
- [125] 寿岳文章 「絵本どんきほうて 由来」世界の文学月報(34) 中央公論社 1965.
- [126] 寿岳文章 「『絵本どんきほうて』のころー思い出すまに」『芹沢 介全集I』中央公論社 1980.
- [127] 寿岳文章 「『絵本どんきほうて』由来」中央公論世界の文学付録 34. 1965. 『柳宗悦と共に』集英社 1980.
- [128] 自由国民社編 「ドン・キホーテ」家庭の手帖 8月号 1951.
- [129] 杉浦 勉 「愛の手紙、性の形象(前)ーセルバンテスの場合ー」HISPANICA 32. 1988.
- [130] 杉浦 勉 「マルセーラのほうへーセルバンテスの物語言説における女性」HISPANICA 33. 1989.
- [131] 杉浦 勉 "Han=Don Quijote ron(Antiquijotismo: en busca de una metodología cervantina) por Nobuaki Ushijima, 1989" HISPANICA 34. 1990.
- [132] 杉浦 勉 「セルバンテス『模範小説集』書評」リテレール 8. 1994.
- [133] 鈴木正志 「"ドン・キホーテ" に於ける騎士道物語世界と現実世界」HISPANICA 39. 1995.
- [134] 鈴木正志 「ドン・キホーテの死の原因についての考察ードン・キホーテ続編を中心にー」HISPANICA 40. 1996.
- [135] 隅井秀幸 「セルバンテスからトーマス・マンへドイツ文学に現れたドン・キホーテ像をめぐる」学習院大学ドイツ文学語学研究 17. 1993.
- [136] 世路蛮太郎 『『ドン・キホーテ』ノートNo. 1-14』セルバンテス文庫 1985-90.
- [137] 世路蛮太郎 『ドン・キホーテ通信 1, 2, 3, 4, 5, 6』セルバンテス文庫 1992-95.
- [138] 世路蛮太郎 「スペイン文学ー『ドン・キホーテ』を読もう」『スペイン讃歌』春秋社 1992.
- [139] 世路蛮太郎 「幻の『絵本どんきほうて』」REHK 3. 1995.
- [140] 世路蛮太郎 「島村抱月の『ドン・キホーテ』観」ドン・キホーテ通信 5号 1995.

- [141] 世路蛭太郎 「松本幸四郎と『ドン・キホーテ』」 REHK 4. 1996.
- [142] 瀬田栄之助 「セルバンテスの生涯と作品」人間像 5月号 1954.
- [143] 瀬田栄之助 「ドン・キホーテ(1-3)」図書新聞 4月10日、17日、24日、1965.
- [144] 瀬田栄之助 「ウナムーノ『ドン・キホーテとサンチョの生涯』(1-2)」筑摩世界
古典文学全集39. 月報 12. 40. 月報 13. 1965.
- [145] 高橋康也 「セルバンテスーあるいは鏡の国の道化」『道化の文学ールネサンスの
栄光』中公新書 1977.
- [146] 高橋正武 「ドン・キホーテの書名」HISPANOFILOS 41. 1976.
- [147] 高安月郊 「東西書籍の比較ードン・キホーテの初版の扉について」学鑑 21(16).
1917.
- [148] 竹内成明 「闊達な愚者ーまたはサンチョ・パンサ」展望 209. 1976.
- [149] 竹内成明 「闊達な愚者ー序にかえてー(サンチョ・パンサについて)」『闊達な
愚者ー相互性のなかの主体』れんが書房新社 1980.
- [150] 田尻陽一 「「夢」と「葦」と「毒」」世紀末研究 8. スペイン特集 1984.
- [151] 長南 実 「セルバンテス作品の味わい方(古典を読む)」世界文学体系(11)セル
バンテス月報 (63) 筑摩書房 1962.
- [152] 長南 実 「セルバンテス通り界限ーマドリード古典劇散歩」ちくま 9月号 1975.
- [153] 長南 実 「解説(『ドン・キホーテ』正編擁護論)」『ドン・キホーテ』(会田
由訳) 学習研究社 1978.
- [154] 長南 実 「『ドン・キホーテ』への招待ースペインの民族精神を理解するために
」神吉敬三編『スペイン・ポルトガル博物館』講談社 1979.
- [155] 長南 実 「ピカレスク小説と『ドン・キホーテ』」『スペイン・ポルトガル(世
界の国シリーズ5) 1983.
- [156] 長南 実 「『ドン・キホーテ』はどう読まれてきたか」岩波講座『文学』第 9巻
岩波書店 1976.
- [157] 鼓 直 「セルバンテスの奇譚」愛蔵版世界文学全集 3月報39 集英社 1975.
- [158] ツルゲネフ(宮原晃一訳) 「ハムレットとドン・キホーテ」『海外芸術評論双書
(8) 文学的回想』聚芳閣 1926.
- [159] ツルゲネフ(河野与一/ 柴田治三郎訳) 『ハムレットとドン・キホーテ』岩波文
庫 1955.
- [160] デュアメル、ジョルジュ(渡辺一夫訳) 「二人の師匠ーセルバンテスの例」『文学
の宿命』創元社 1940.
- [161] トゥルゲネフ(宮原晃一訳) 『ハムレットとドン・キホーテ』春秋社 1920.
- [162] 朝永三十郎 「ドン・キホーテ式とハムレット式」大日本図書株式会社 1906.
- [163] ドレー、ギュスターブ 『図説ドン・キホーテ』一橋出版 1982.

- [164] 鶴田義郎 「阿Q とドン・キホーテの形象の比較研究」熊本商大論集 32(1).1985.
- [165] 中川和彦 「ドン・キホーテとサンチョの關係の法的考察—法学的ドン・キホーテ論序説」成城大学法学教室論集 4.1984.
- [166] 中川真平 「二つのドン・キホーテ」山本新研究 12.1987.
- [167] 永田寛定 「セルバンテス」『世界文学講座 南欧文学篇』新潮社 1932.
- [168] 永田寛定 「セルバンテス」『岩波講座世界文学』岩波書店 1933.
- [169] 永田寛定 「セルバンテスの生誕地」炬火復刊第 1号 1947.
- [170] 永田寛定 「ドン・キホーテについて」『セルバンテス正編(1)』岩波文庫1948.
- [171] 永田寛定 「『ドン・キホーテ』の邦訳について」図書 8月号 1950.
- [172] 中野記偉 「狂氣の方法化—『行人』と『ドン・キホーテ』」英文学と英語学 20.1984.
- [173] 中野好夫 「シェークスピアとセルバンテス」富永惣一ほか編『図説世界史体系(9)』角川書店 1959.
- [174] 中村光夫 「ドン・キホーテ」『日本の近代』文芸春秋 1966.
- [175] 中村光夫 「ドン・キホーテ」『新編人生の本3 諸君のすすめ』文芸春秋社 1971.
- [176] 那須辰造 「ドン・キホーテ」『中学生の文芸教室：外国文学の読み方』同和春秋社 1954.
- [177] ナボコフ、ウラジーミル(行方昭夫/河島弘美訳)『ナボコフのドン・キホーテ講義』晶文社 1992.
- [178] 西垣雄太郎 「セルバンテスとベラスケス」HISPANICA 12.1967.
- [179] 沼田美奈子 「『ドン・キホーテ』における狂氣の中の真の人間性」世代 21.1984.
- [180] 野口武彦 「極東から見たドン・キホーテ」文学会 7月 1994.
- [181] ハイネ、H.(山下肇訳)「ドン・キホーテ論」『ドイツの文学 2ハイネ』三修社 1970.
- [182] 萩原朔太郎 「ドン・キホーテを見て」書物 2(8).1934.
- [183] 萩原朔太郎 「ドン・キホーテの近代性」『絶望の逃走』暁書房 1948.
- [184] 萩原朔太郎 「ドン・キホーテを見て」『萩原朔太郎全集第10巻』筑摩書房 1977.
- [185] 長谷川天溪 「ハムレットとドン・キホーテとサンチョと三式の人物」早稲田學報 1908.
- [186] 花田清輝 『ドン・キホーテ論』文化組織 1940.
- [187] パピニ(三浦逸雄訳)『ドン・キホーテ 二十四の脳髓』弘文社 1924.
- [188] 林屋永吉 「『ドン・キホーテ』の書評」図書6月号 1951.
- [189] 林屋永吉 「ドン・キホーテと時代の流れ」中央公論世界の文学付録 34.1965.
- [190] 原 潔 「『ドン・キホーテ』における『騎士物語』の変容」富田 仁/長谷川勉

- 編著『欧米文学交流の諸様相』三修社 1983.
- [191] 坂東省次・蔵本邦夫編 『セルバンテスの世界』世界思想社 1997.
- [192] 平田 渡 「ドン・キホーテにおけるパロディとカーニバルふうの笑い」世紀末研究 8.1984.
- [193] ブウヴ、サント(会田 由/佐藤文樹訳)「セルバンテス」『サント・ブウヴ選集 第1 巻1 中世及び十六世紀作家論』実業之日本社 1947.
- [194] フェンテス、カルロス(牛島信明訳)『セルバンテスまたは読みの批判』書肆風の薔薇 1982.
- [195] フェルナンデス、J.(柴田純子訳)『ドン・キホーテへの招待一夢、挫折そして微笑』西和書林 1985.
- [196] フェルナンデス、J.「『ドン・キホーテ』における人間の価値をめぐって」HISPANICA 30.1986.
- [197] フェルナンデス、F.(前田浩司訳)「ドン・キホーテとサンチョ(1615)ーこのつれない孤独に残されて」上智大学外国語学部紀要 23.1988.
- [198] フェルナンデス、J.「『ドン・キホーテ』における「グリソーストモとマルセーラ」のエピソードに関する研究と文献」上智大学外国語学部紀要 25.1990.
- [199] フェルナンデス、ハイメ(前田浩司訳)「トン・キホーテとサンチョ(1615 年): 「このつれない孤独に残されて・・・」スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [200] プリーストリー、J.B.「スペインとセルバンテス」『文学と人間像』世界文学体系別巻 2 筑摩書房 1962.
- [201] ヘッセ、ヘルマン(高橋健二訳)「セルバンテス」『世界文学をどう読むか』新潮文庫 1951.
- [202] 保坂栄一 「セルバンテスの時代」筑摩世界古典文学全集 39.月報 12 1965.
- [203] 本田誠二 「ドン・キホーテ的狂気の再検討ーEl caballero del verde Gabánをめぐって」熊本短大論集 31(2).1980.
- [204] 本田誠二 「グリソーストモの死をめぐってー『ドン・キホーテ』における曖昧性・両義性に関する一考察」HISPANICA 31.1987.
- [205] 本田誠二 「『ドン・キホーテ』における愛の葛藤劇とセルバンテスの思想」スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [206] 本田誠二 "La filosofía del amor en la novela pastoril de Cervantes"ACTAS. 1993.
- [207] 本田誠二 "El mundo erótico-brujeril de Cervantes"ルネサンス研究 1.1994.
- [208] 本田誠二 「セルバンテス『ガラテア』の研究と批評」ルネサンス研究 2.1995.
- [209] マエストゥ(吉田秀太郎訳注)『愛の象徴ドン・キホーテ』大学書林 1960.
- [210] マーロウ、スティーヴン(増田義郎訳)『ドン・キホーテのごとく』上・下巻、

文芸春秋社 1996.

- [211] マダリアーガ、サルバドール(牛島信明訳)『ドン・キホーテの心理学』晶文社 1992.
- [212] Martín-Flores, Mario "De la cueva de Montesinos a las aventuras de Clavileño: un itinerario de carnavalización del discurso autoritario en el Quijote" HISPANICA 38. 1994.
- [213] マン、トーマス(高橋義孝訳)「ドン・キホーテとともにアメリカへ渡る」人間 10/11/12号 1946.『トーマス・マン全集』IX 新潮社 1971.
- [214] 三浦朱門 「セルバンテスの家」筑摩世界古典文学全集 40. 月報 13. 1965.
- [215] 水落 潔 「見果てぬ夢ー秘められたメッセージ」毎日新聞夕刊 7月 3日 1995.
- [216] 水落 潔・松本幸四郎 『幸四郎 見果てぬ夢』毎日新聞社 1996.
- [217] 村上勇三 「万人の宝ードン・キホーテとハムレットの死に対する見方について」学鐙 20(11). 1916.
- [218] メネンデス・ピダル、ラモン(永田寛定抄訳)「ドン・キホーテ制作の一面」『ドン・キホーテ』続編 第一分冊 岩波文庫 1953.
- [219] 安岡章太郎 「とらえがたい滑稽」世界文学体系 10. 月報 36. 1960.
- [220] 柳田 泉 「セルバンテス作について」日本文学講座(12) 明治時代(中編)『明治の翻訳文学の研究』新潮社 1931.
- [221] 矢野千積 「ドン・キホーテ」岩波講座世界文学『文学史概説近世』岩波書店 1934.
- [222] 山口昌男 「『ドン・キホーテ』における文化と狂気」スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [223] 山田真史 「ラ・マンチャの命名する男」人文研究 72. 1986.
- [224] 山田真史 「『月光』の記号論」人文研究 76. 1988.
- [225] 山田由美子 『ベン・ジョンソンとセルバンテスー騎士道物語と人文主義文学』世界思想社 1995.
- [226] 山旭光 「活動写真家の「ドン・キホーテ」」歌舞伎 158. 1913.
- [227] ライリー、エドワード・C.(三角明子訳)「読者及び作者としてのセルバンテス」スペイン文化シリーズ 1号 1991.
- [228] Riley, E. C. "Don Quijote in world literature" 京都外国語大学イスパニア語学科創設25周年記念論文集 1989.
- [229] ラーゲル、アルベール(中野好夫訳)「セルバンテス」『世界文学序説』世界文学体系別巻(1) 筑摩書房 1961.
- [230] ラッセル、P. E.(田口伸悟訳)『セルバンテス』教文館 1996.
- [231] ルカーチ、G.(高本研一訳)「ドン・キホーテ論」『ルカーチ著作集第 2巻』白水

社 1968.

- [232] ロベール、マルト(円子千代訳) 「ドン・キホーテについて」筑摩文学体系 15. 1972.
- [233] ロベール、マルト(城山良彦/ 島 利雄/ 円子千代訳) 『古きものと新しきものードン・キホーテからカフカへ』法政大学出版局 1973.
- [234] ロベール、マルト(岩崎 力/ 西永良成訳) 「ロビンソンのなものとドン・キホーテ的なもの」『起源の小説と小説の起源』河出書房新社 1975.

目次

はじめに	I
目次	IV
凡例	XIII
引用・参考・掲載・文献目録・略号	XIV
年号対照表	XXV
主題別分類目録	1
01.00.総記	3
01.01.スペイン一般	3
01.02.書誌	3
02.00.思想・哲学	4
02.01.一般	4
02.02.ルシアス・セネカ	5
02.03.聖イシドルス	6
02.04.ファン・ヒネス・デ・セプルベダ	6
02.05.ファン・ルイス・ビーベス	6
02.06.フランシスコ・デ・ビトリヤ	6
02.07.フランシスコ・スアレス	6
02.08.ハイメ・バルメス	7
02.09.ドノソ・コルテス	7
02.10.マルセリーノ・メネンデス・イ・ペラヨ	7
02.11.ミゲル・デ・ウナムーノ	7
02.12.アンヘル・ガニベール	9
02.13.ラモン・メネンデス・ピダル	10
02.14.ラミーロ・デ・マエストゥ	10
02.15.ホセ・オルテガ・イ・ガセット	10
02.16.アメリコ・カストロ	14
02.17.サルバドル・デ・マダリアガ	14
02.18.グレゴリオ・マラニョン	14
02.19.ディエス・デル・コラル	14
02.20.ハビエル・スピリ	14
03.00.宗教	15
03.01.一般	15
03.02.イグナシオ・デ・ロヨラ	15
03.03.フランシスコ・ザビエル	17

03.04.サンタ・テレサ・デ・ヘスス	21
03.05.サン・ファン・デ・ラ・クルス	22
03.06.ホセ・マリア・エスクリバー	22
04.00.歴史	22
04.01.一般	22
04.02.古代・中世	23
04.03.近代	30
04.04.大航海・植民地時代	35
04.05.コロンブス	39
04.06.内戦	44
04.07.現代史	64
04.08.スペイン系ユダヤ人	69
04.09.交渉史	74
05.00.政治・法律	78
06.00.経済・経営	83
07.00.民族・文化	93
07.01.一般	93
07.02.アンダルシア	96
07.03.カタルーニャ	97
07.04.バスク	98
07.05.ガリシア	99
07.06.ジプシー	100
07.07.闘牛	100
07.08.スポーツ	101
07.09.観光	101
07.10.料理	101
08.00.芸術	103
08.01.美術	103
08.01.01.一般	103
08.01.02.エル・グレコ	107
08.01.03.ディエゴ・ベラスケス	108
08.01.04.ホセ・デ・リベラ	109
08.01.05.フランシスコ・スルバラン	109
08.01.06.サルバドール・ダリ	109
08.01.07.ジョアン・ミロ	112
08.01.08.フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス	115

08.01.09.パブロ・ピカソ	119
08.02.音楽	130
08.03.映画	133
08.04.建築	135
08.05.写真	143
08.06.陶器	143
09.00.文学	144
09.01.文学史・文学一般	144
09.02.小説	149
09.02.01.フェルナンド・デ・ロハス	149
09.02.02.マテオ・アレマン	150
09.02.03.ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯	150
09.02.04.フランシスコ・ケベード	150
09.02.05.バルタサール・グラシアン	151
09.02.06.ホセ・カダルソ	151
09.02.07.フェルナン・カバリェロ	151
09.02.08.ホセ・デ・エスプロンセーダ	151
09.02.09.ホセ・マリアーノ・デ・ラーラ	151
09.02.10.ファン・バレラ	151
09.02.11.ペドロ・アントニオ・デ・アラルコン	152
09.02.12.ガスパール・ヌニェス・デ・アルセ	152
09.02.13.グスタボ・アドルフォ・ベッケル	152
09.02.14.ベニート・ペレス・ガルドス	153
09.02.15.エミリア・パルド・バサン	153
09.02.16.クラリン（レオポルド・アラス）	154
09.02.17.アルマンド・パラシオ・バルデス	154
09.02.18.ミゲル・デ・ウナムーノ	154
09.02.19.ラモン・マリア・デル・バジェ=イン克蘭	155
09.02.20.ビセンテ・ブラスコ・イバーニェス	156
09.02.21.ピオ・バローハ	158
09.02.22.アソリン（ホセ・マルティネス・ルイス）	160
09.02.23.ラミロ・デ・マエストゥ	160
09.02.24.ベンセスラオ・フェルナンデス・フローレス	160
09.02.25.ファン・ラモン・ヒメネス	161
09.02.26.ラモン・ペレス・デ・アヤーラ	161
09.02.27.グレゴリオ・マルチネス・シエラ	161

09.02.28.ペドロ・ムニョス・セカ	161
09.02.29.アルトゥロ・バレア	161
09.02.30.ホセ・マリア・ペマン	162
09.02.31.ラモン・センデール	162
09.02.32.フェリペ・アルファウ	162
09.02.33.マックス・アウブ	162
09.02.34.カミーロ・ホセ・セラ	162
09.02.35.ホセ・マルティネス・マルティン・ビヒル	163
09.02.36.ミゲル・デリーベス	163
09.02.37.カルメン・ラフォレー	163
09.02.38.ホルヘ・センブルン	163
09.02.39.ルイス・マルティン・サントス	163
09.02.40.アナ・マリア・マトゥーテ	164
09.02.41.ファン・ゴイティソーロ	164
09.02.42.マヌエル・バスケス・モンタルバン	164
09.02.43.ルイス・ランデーロ	164
09.02.44.ペドロ・アルモドバル	164
09.02.45.ルイス・アントニオ・デ・ビリェナ	164
09.02.46.ファン＝ラモン・サラゴサ	164
09.02.47.アルトゥーロ・ペレス・レベルテ	164
09.03.ミゲル・デ・セルバンテス	165
09.04.詩	178
09.04.01.一般	178
09.04.02.『わがシッドの歌』	179
09.04.03.ゴンサーロ・デ・ベルセオ	179
09.04.04.ドン・ファン・マヌエル	179
09.04.05.ファン・ルイス	180
09.04.06.サンティリャーナ侯爵	180
09.04.07.ホルヘ・マンリーケ	180
09.04.08.ガルシラーソ・デ・ラ・ベガ	181
09.04.09.ルイス・デ・レオン	181
09.04.10.サン・ファン・デ・ラ・クルス	181
09.04.11.ルイス・デ・ゴンゴラ	181
09.04.12.ホセ・デ・エスプロンセダ	181
09.04.13.ホセ・ソリーリャ	182
09.04.14.ラモン・デ・カンポアモール	182

09.04.15.ペドロ・アントニオ・デ・アラルコン	182
09.04.16.グスタボ・アドルフォ・ベッケル	183
09.04.17.ロサリア・デ・カストロ	183
09.04.18.ラモン・マリア・デル・バリェ＝イン克蘭	183
09.04.19.マヌエル・マチャード	183
09.04.20.アントニオ・マチャード	183
09.04.21.ファン・ラモン・ヒメネス	185
09.04.22.フェデリコ・ガルシア・ロルカ	185
09.04.23.ビセンテ・アレイクサンドレ	191
09.04.24.ラファエル・アルベルティ	191
09.04.25.ルイス・セルヌーダ	191
09.04.26.ホセ・イエロ	191
09.05.演劇	191
09.05.01.一般	191
09.05.02.バルトロメ・デ・トーレス・ナアロ	192
09.05.03.ロペ・デ・ベガ	193
09.05.04.ギリェン・デ・カストロ	194
09.05.05.ティルソ・デ・モリーナ	194
09.05.06.カルデロン・デ・ラ・バルカ	195
09.05.07.トマス・デ・イリアルテ	196
09.05.08.レアンドロ・フェルナンデス・デ・モラティン	196
09.05.09.フランシスコ・マルティネス・デ・ラ・ロサ	197
09.05.10.ホセ・ソリーリャ	197
09.05.11.ホセ・エチェガライ	197
09.05.12.ハシント・ベナベンテ	197
09.05.13.ラモン・マリア・デル・バリェ＝イン克蘭	197
09.05.14.アルバレス・キンテーロ兄弟	197
09.05.15.ハシント・グラウ	198
09.05.16.ペドロ・ムニョス・セカ	198
09.05.17.グレゴリオ・マルティーネス・シエルラ	198
09.05.18.フェデリコ・ガルシア・ロルカ	198
09.05.19.アレハンドロ・カソーナ	200
09.05.20.ミゲール・ミウラ	201
09.05.21.ビクトル・ルイス・イリアルテ	201
09.05.22.アントニオ・ブエロ・バリェホ	201
09.05.23.アルフォンソ・サストレ	201

09.06.比較文学	201
09.07.民話・昔話	204
09.08.児童文学	207
09.09.地方文学	208
09.09.01.ガリシア文学	208
09.09.02.バスク文学	208
09.09.03.カタールニャ文学	208
09.10.ラテンアメリカ文学	209
09.10.01.一般	209
09.10.02.イサベル・アジェンデ	215
09.10.03.マリアノ・アスエラ	215
09.10.04.ミゲル・アンヘル・アストゥリアス	215
09.10.05.アントニオ・オメロ・アタナシウス	216
09.10.06.エミリオ・アブレウ・ゴメス	216
09.10.07.ロペス・アルブーハル	216
09.10.08.ブラウリオ・アレナス	217
09.10.09.レイナルド・アレナス	217
09.10.10.マリア＝デル＝カルメン・アブラム・R	217
09.10.11.ホセ・マリア・アルゲーダス	217
09.10.12.グスタボ・アルフレード・ハコメ	218
09.10.13.J・J・アレオラ	218
09.10.14.エンリケ・アンデルソン＝インベル	218
09.10.15.ホルヘ・イカサ	218
09.10.16.パコ・イグナシオ・タイボ二世	218
09.10.17.ホルヘ・イサーク	218
09.10.18.ホルヘ・イバルグエン・ゴイティア	219
09.10.19.ギリエルモ・カブレラ・インファンテ	219
09.10.20.ビセンテ・ウイドブロ	219
09.10.21.アルトゥロ・ウスラル・ピエトリ	219
09.10.22.マリア・エステル・バスケス	219
09.10.23.ラウル・エスキーベル	219
09.10.24.ホルヘ・エドワーズ	219
09.10.25.サルバドール・エリソンド	219
09.10.26.フェリスベルト・エルナンデス	219
09.10.27.ホセ・エルナンデス	220
09.10.28.マリア・エルビラ・ベルムデス	220

09.10.29.シルビナ・オカンボ	220
09.10.30.ミゲル・オテロ＝シルバ	220
09.10.31.ファン・カルロス・オネッティ	220
09.10.32.アンドレス・オメロ＝アタナシウス	220
09.10.33.ロムロ・ガジェーゴス	220
09.10.34.ロサリオ・カステリヤーノス	221
09.10.35.ギリエルモ・カブレラ＝インファンテ	221
09.10.36.オマル・カベサス	221
09.10.37.ガブリエル・ガルシア＝マルケス	221
09.10.38.エルネスト・カルデナル	225
09.10.39.オネリオ＝ホルヘ・カルドーソ	225
09.10.40.アレホ・カルペンティエル	225
09.10.41.エレナ・ガロ	226
09.10.42.ニコラス・ギリエン	226
09.10.43.オラシオ・キローガ	226
09.10.44.リカルド・グイラルデス	227
09.10.45.フリオ・コルタサル	227
09.10.46.グスタボ・サインス	228
09.10.47.エルネスト・サバト	228
09.10.48.セベロ・サルドウイ	229
09.10.49.アントニオ・シスネロス	229
09.10.50.アントニオ・スカルメタ	229
09.10.51.ホセ・ソレル・プイグ	229
09.10.52.ホセ・ファン・タブラーダ	229
09.10.53.ルベン・ダリオ	229
09.10.54.エドムンド・デスノエス	229
09.10.55.ホセ・ドノソ	230
09.10.56.マルタ・トラバーバ	230
09.10.57.マヌエル・ドルフマン	230
09.10.58.パブロ・ネルーダ	230
09.10.59.セサル・バジエーホ	231
09.10.60.オクタビオ・パス	231
09.10.61.セネル・パス	234
09.10.62.ホセ・エミリオ・パチエーコ	234
09.10.63.マリオ・バルガス＝リョサ	235
09.10.64.ミゲル・バルネー	237

09.10.65.ルイサ・バレンスエラ	237
09.10.66.アドルフォ・ビオイ＝カサレス	237
09.10.67.マヌエル・プイグ	237
09.10.68.ファニー・ブイトゥラゴ	238
09.10.69.ホセ・ホアキン・フェルナンデス・デ・リサルディ	238
09.10.70.カルロス・フェンテス	238
09.10.71.アルフレード・ブライス＝エチェニケ	240
09.10.72.ルフィーノ・ブランコ・フォンボナ	240
09.10.73.マルタ・ブルネー	240
09.10.74.マヌエル・ペイロウ	240
09.10.75.マリオ・ベネデッティ	240
09.10.76.フェデリコ・ベルツァー	240
09.10.77.アベル・ポッセ	241
09.10.78.エレナ・ボニアトブスカ	241
09.10.79.ホルヘ＝ルイス・ボルヘス	241
09.10.80.ホセ・マルティ	248
09.10.81.ガブリエラ・ミストラル	248
09.10.82.マヌエル・ムヒカ＝ライネス	249
09.10.83.エクトル・アドルフォ・ムレーナ	249
09.10.84.カルロス・マルティネス・モレノ	249
09.10.85.アウグスト・モンテローソ	249
09.10.86.アタウアルパ・ユバンキ	249
09.10.87.フリオ・ラモン・リベイロ	249
09.10.88.レオポルド・ルゴネス	249
09.10.89.ホセ・ルベン・ロメロ	250
09.10.90.ファン・ルルフォ	250
09.10.91.アルフォンソ・レイエス	251
09.10.92.ホセ・レサマ＝リマ	251
09.10.93.ホセ・レブエルタス	251
09.10.94.アウグスト・ロア＝バストス	251
09.10.95.マヌエル・ロハス	252
09.10.96.ゴンサロ・ロハス	252
09.10.97.グレゴリオ・ロペス・イ・フェンテス	252
10.00.語学.....	252
10.01.音声学・音韻論.....	252
10.02.文法論.....	257

10.03.語彙	281
10.04.歴史・方言	283
10.05.教育・概論	290
10.06.比較・対照言語	296
10.07.辞書・語彙集	301
10.08.学習参考書	303
10.09.教科書	309
10.10.地方語	314
10.10.01.ガシリア語	314
10.10.02.バスク語	315
10.10.03.カタールニャ語	318
10.11.ラテンアメリカのスペイン語	319
11.00.自然科学	322